

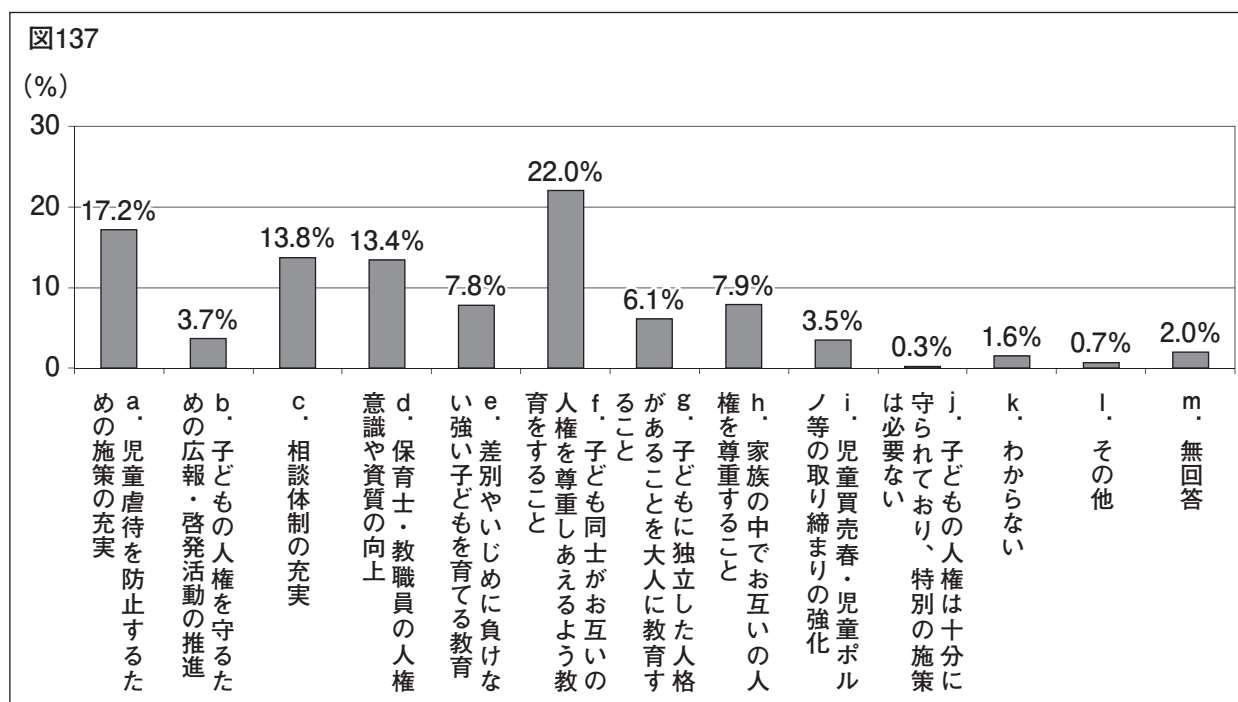
7 子どもの人権について、あなたのお考えをお聞かせください。

質問24-① 子どもの人権を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は3つ以内)

- 1 児童虐待を防止するための施策の充実
- 2 子どもの人権を守るための広報・啓発活動の推進
- 3 相談体制の充実
- 4 保育士・教職員の人権意識や資質の向上
- 5 差別やいじめに負けない強い子どもを育てる教育
- 6 子ども同士がお互いの人権を尊重しあえるよう教育をすること
- 7 子どもに独立した人格があることを大人に教育すること
- 8 家族の中でお互いの人権を尊重すること
- 9 児童買売春・児童ポルノ等の取り締まりの強化
- 10 子どもの人権は十分に守られており、特別の施策は必要ない
- 11 わからない
- 12 その他 ()

〈分析〉

○ 子どもの人権を守るために必要なこととしては、「f. 子ども同士がお互いの人権を尊重しあえるよう教育をすること」(22.0%)が最も高く、「a. 児童虐待を防止するための施策の充実」(17.2%)、「c. 相談体制の充実」(13.8%)、「d. 保育士・教職員の人権意識や資質の向上」(13.4%)の順になっている。「j. 子どもの人権は十分に守られており、特別の施策は必要ない」は極めて低い。[図137]

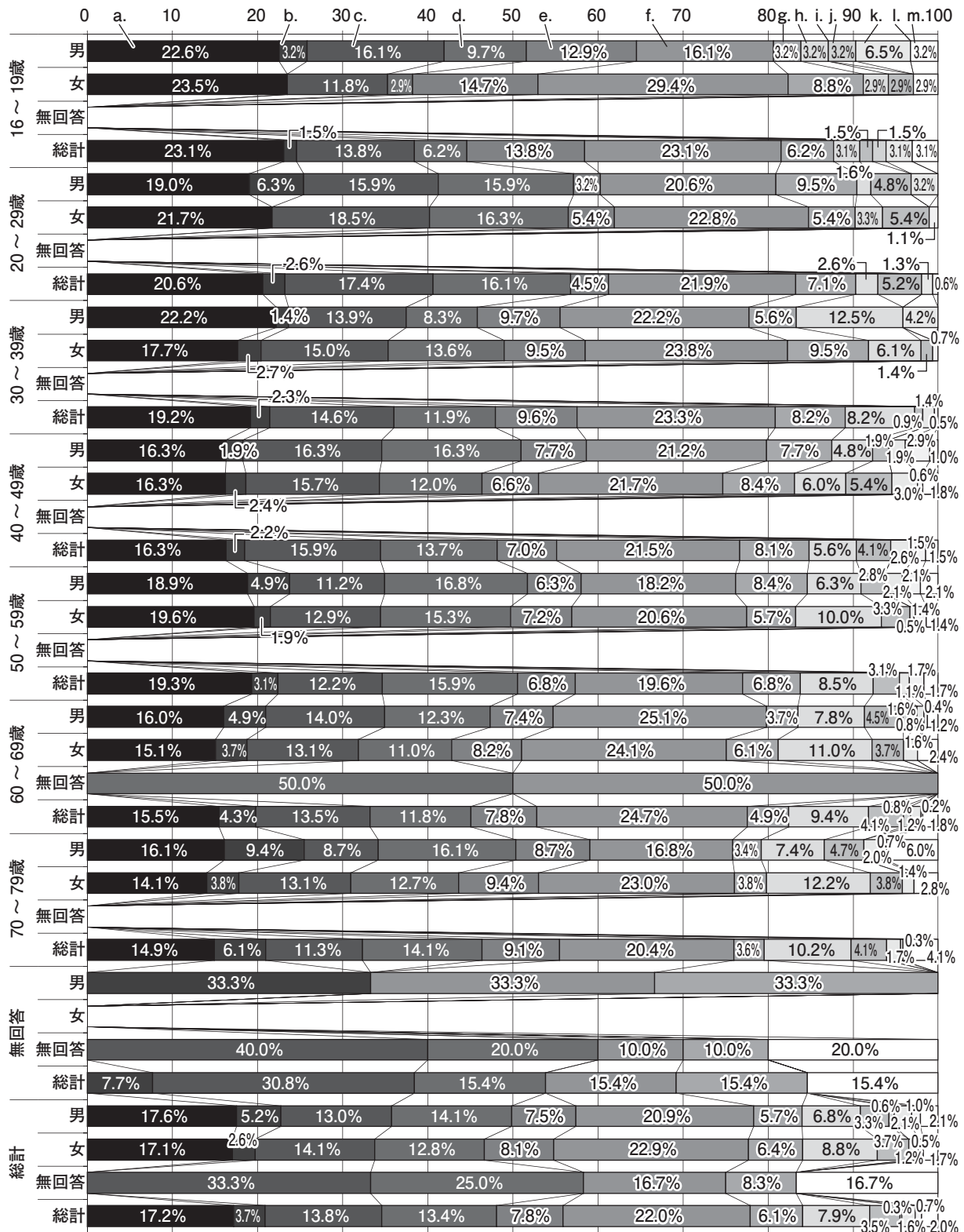


○ 性別[図138]では、ほとんど差異はない。

○ 年齢階層別[図138]では、すべての年代で「f. 子ども同士がお互いの人権を尊重しあえるよう教育をすること」が最も高い。「a. 児童虐待を防止するための施策の充実」では16～19歳の23.1%が最も高い。「k. わからない」も16～19歳の3.1%が高い。

図138

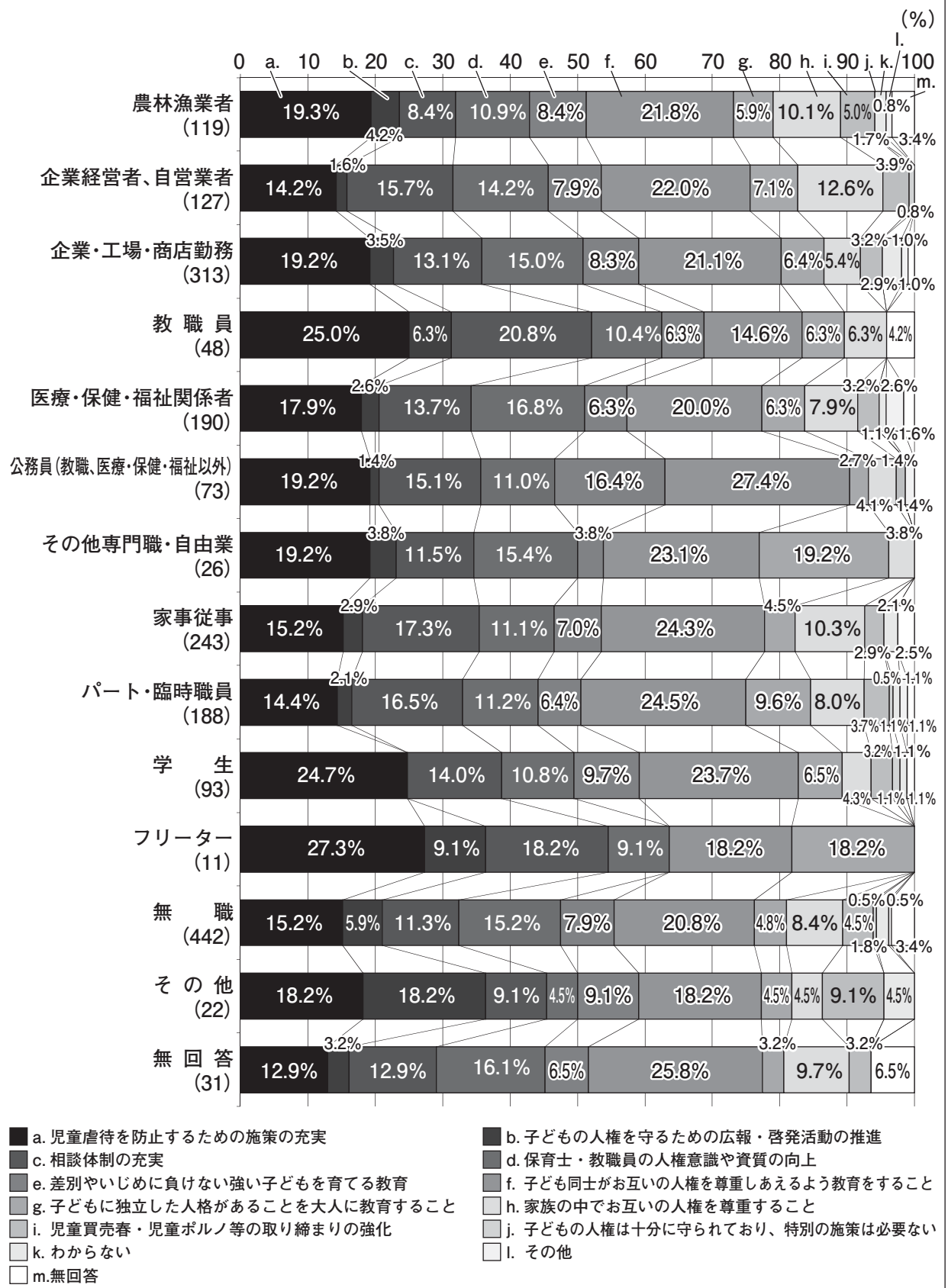
(%)



- a. 児童虐待を防止するための施策の充実
- b. 子どもの人権を守るための広報・啓発活動の推進
- c. 相談体制の充実
- d. 保育士・教職員の人権意識や資質の向上
- e. 差別やいじめに負けない強い子どもを育てる教育
- f. 子ども同士がお互いの人権を尊重しあえるよう教育をすること
- g. 子どもに独立した人格があることを大人に教育すること
- h. 家族の中でお互いの人権を尊重すること
- i. 児童買春・児童ポルノ等の取り締まりの強化
- j. 子どもの人権は十分に守られており、特別の施策は必要ない
- k. わからない
- l. その他
- m. 無回答

○ 職業別[図139]では、「a. 児童虐待を防止するための施策の充実」では高いのはフリーター(27.3%)で、次いで学校の教職員(25.0%)である。「c. 相談体制の充実」も同職種(20.8%)が最も高い。「f. 子ども同士がお互いの人権を尊重しあえるよう教育をすること」は、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(27.4%)が最も高い。

図139

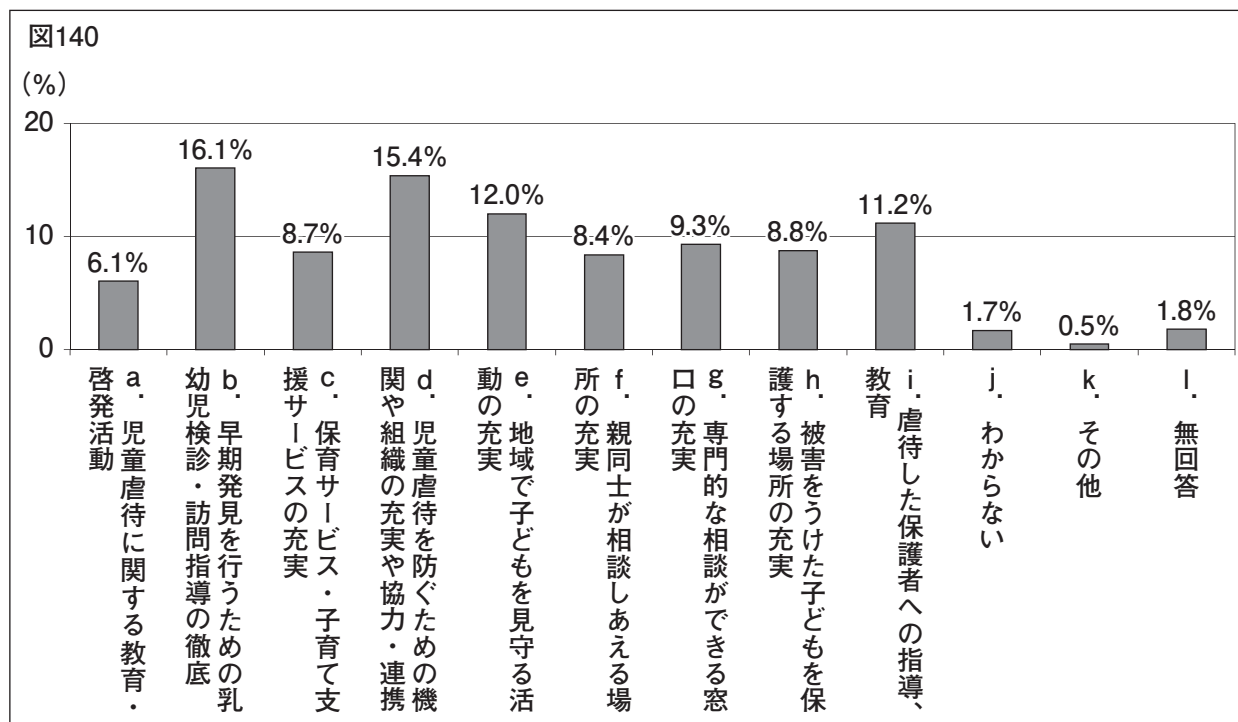


質問24-② 児童虐待をなくするために、必要なことはどのようなことだと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は3つ以内)

- | | |
|----|--------------------------|
| 1 | 児童虐待に関する教育・啓発活動 |
| 2 | 早期発見を行うための乳幼児検診・訪問指導の徹底 |
| 3 | 保育サービス・子育て支援サービスの充実 |
| 4 | 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携 |
| 5 | 地域で子どもを見守る活動の充実 |
| 6 | 親同士が相談しあえる場所の充実 |
| 7 | 専門的な相談ができる窓口の充実 |
| 8 | 被害をうけた子どもを保護する場所の充実 |
| 9 | 虐待した保護者への指導、教育 |
| 10 | わからない |
| 11 | その他 () |

〈分析〉

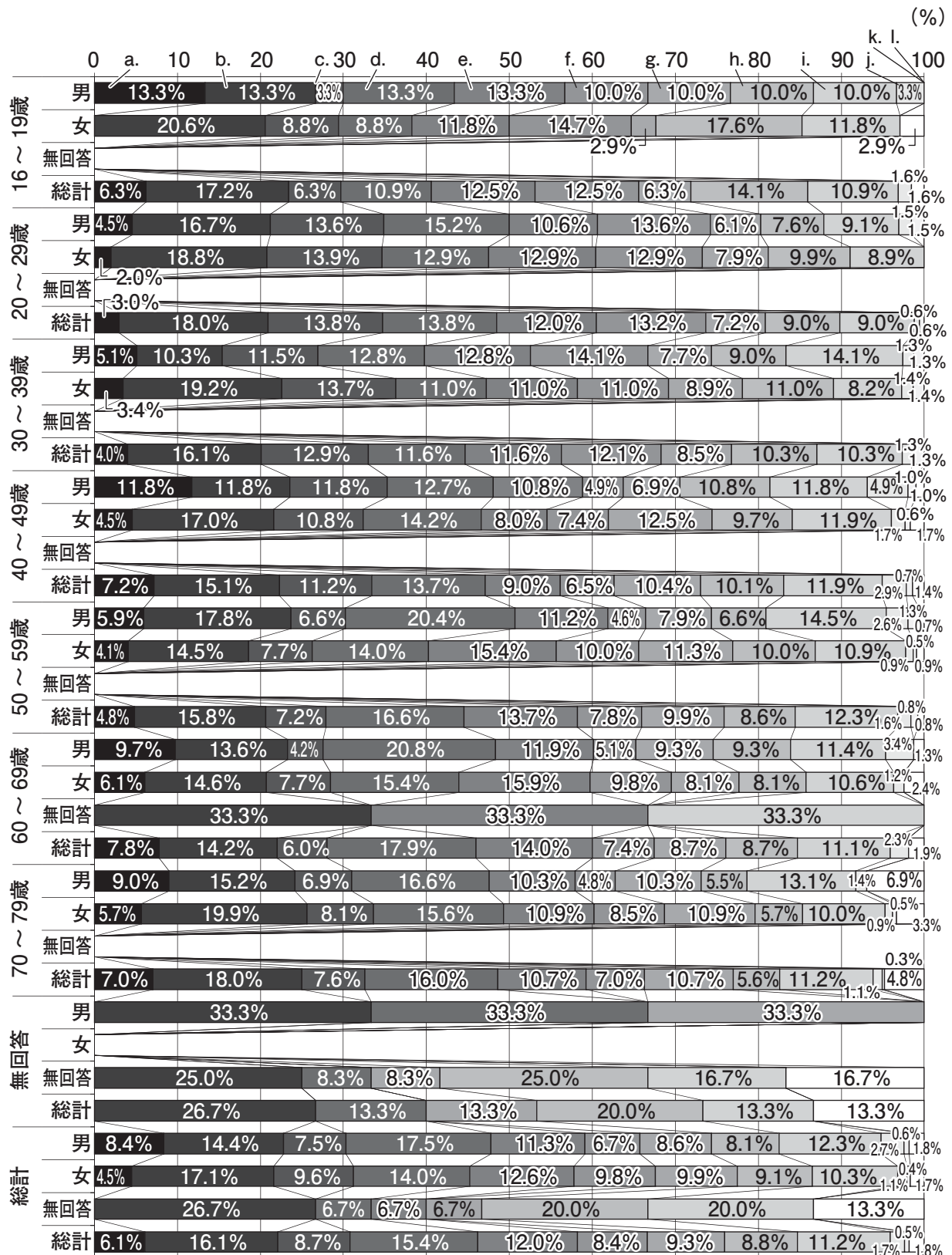
○ 児童虐待をなくすために必要なことは、「b. 早期発見を行うための乳幼児検診・訪問指導の徹底」(16.1%)が最も高く、次いで「d. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携」(15.4%)、「e. 地域で子どもを見守る活動の充実」(12.0%)の順となっている。[図140]



○ 性別[図141]では、ほとんど差異はないが、男性は「d. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携」(17.5%)が最も高く、女性(14.0%)より3.5ポイント高い。一方、女性は「b. 早期発見を行うための乳幼児検診・訪問指導の徹底」(17.1%)が最も高く、男性(14.4%)より2.7ポイント高い。

○ 年齢階層別[図141]では、50～59歳及び60～69歳以外は「b. 早期発見を行うための乳幼児検診・訪問指導の徹底」が最も高く、なかでも20～29歳、及び70～79歳の18.0%、16～19歳の17.2%が高い。「d. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携」は50～59歳(16.6%)、60～69歳(17.9%)が高い。16～19歳は「h. 被害をうけた子どもを保護する場所の充実」が14.1%と高い。

図141



- a. 児童虐待に関する教育・啓発活動
- b. 早期発見を行うための乳幼児検診・訪問指導の徹底
- c. 保育サービス・子育て支援サービスの充実
- d. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携
- e. 地域で子どもを見守る活動の充実
- f. 親同士が相談しあえる場所の充実
- g. 専門的な相談ができる窓口の充実
- h. 被害をうけた子どもを保護する場所の充実
- i. 虐待した保護者への指導、教育
- j. わからない
- k. その他
- l. 無回答

○ 職業別[図 142]では、すべての職種で「b. 早期発見を行うための乳幼児検診・訪問指導の徹底」と「d. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携」が高い。なかでも、その他専門職・自由業の「d. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実や協力・連携」は23.1%と高い。

図142

